

寺崎組新聞

第八十一号

発行所 寺崎組新聞社

分杭に男を上げる 土砂崩れ

第百十一回組会報告

【組会地決定】七月二十九日(土)長野県茅野市国道152号線杖突峠。この記事をホームページで目にした時、とても輝いて見えた。「新・野宿ライダー」バイクキャンプで学んだことを実行に移す日が、遂にきたからである。しかも本にある初級基本(夏用1泊2日)の装備が実践出来る(バイクキャンプングP36、P37)。装備に関しては1年前からコツコツと集めていた。現時点で足りなかつたのはドカシーとヘッドランプだけ。このくらいなら小生の小遣いで何とか

道のコース

かなる。早速地図で長野県を調べると、我が家から杖突峠まで片道およそ180km。R20で攻めるとして(高速に乗るお金は無い)信号など停車を考えると、1時間で30km進めばいいところだろう。そうすると約6時間で集合場所まで行ける。集合時間が12時から13時の間。5時に起きて6時に出発すればギリ間に合う。小生の愛車はFTR。林道といえどダートであるから愛車のお家芸である。これは勝負出来る!!!胸が高鳴った(後でとんでもない目に遭うが)。やっぱりオフ車が必要か?。

当日はあいにくの曇り。ただし降水確率は10%と天気予報が慰めてくれる。荷物をバイクにくくりつけ、いざスタート。高尾を過ぎて大垂水

峠で荷崩れを起すが、何とか無事杖突峠付近の集合場所に到着する。集合場所では寺さん・地下鉄さん・ゴ三浦さん・酔金さん・朝比奈さんが既に到着していた。本では拝見していたが、初めて会う寺さんに「おお、寺さんだ!」とおお、寺さんだ!と少々びびる。一応私も社会人なので、寺さんを前にして騒がないように努める。「ポンコツバイク再生塾を読みまして。サイン下さい」と言いそうになるが堪える。とりあえず冷静さを装いながら「初めまして、今日はよろしくお願います」とオトナの挨拶をする。雑談をしながら朝食を取っていると、次々とメンバーが集まって来た。同じく初参加の三浦2号さん、フガ金井さん、アミーゴ藤藤さん、野村さん、先生曰田さん、ガス屋平林さん、牧童木下さん。皆さん、本格的オフロードバイクでの登場だ。ただしアミーゴさんは、なんとカブ90オフ車仕様での登場。これにはマジビビった。ストレートに伸びた綺麗なマフラー、オフロード用タイヤを装備したカブは美しくカッコ良かった。そしてアミーゴさんの熱い一言。

「俺は日本一のカブ乗りになる」組会を終えた今、私ははつきりと言えます。あなたはまぎれもない日本一のカブ乗りです。「マジ速のカブ」

林道を抜けると買出しのため、高遠に向かう。水とパンを買って、しばらく休憩する。酔金さんから組会の鉄則を教わる。「遅くても誰も文句は言わないが、酒だけは落とすな。酒には細心の注意を払うべし」この言葉は皆と焚き火を囲んだ時に実感する。酒ありや楽しい。各々買出しを済ませると今日の宿营地、田城高原に向かう。途中ぬかるみの悪路に出くわし、1速の半クラで進むがエンストし立ちゴケ。いやはや何とも情けない。親切にも酔金さんが小生の前を走り、走りやすいラインを示してくれた。ペースも小生に合わせてくれた。無事宿营地に到着することが出来た。酔金さんには感謝感謝です。宿营地は森の中の広場みたいな場所。寺さんの話だと昔キャンプ場だったそうである。広場の真中が若干窪地になっており、連日の雨で池の様になって溜まっていた。各々、その周りでテントを張る。テントを張り終えたらやる事は1つしかない。焚き火を囲んでの宴会である。ビールで乾杯し、宴会スタート。小生は「新野宿ライダー」で学んだ、寺さんスタイルで臨む。首からタオルを掛け、ヘッドランプを頭につける。武器ポーチは無いが、武器はビニール袋に入れて持って来た。飯は水を温めてのインスタント、酒は自宅から持って来た又ルイス



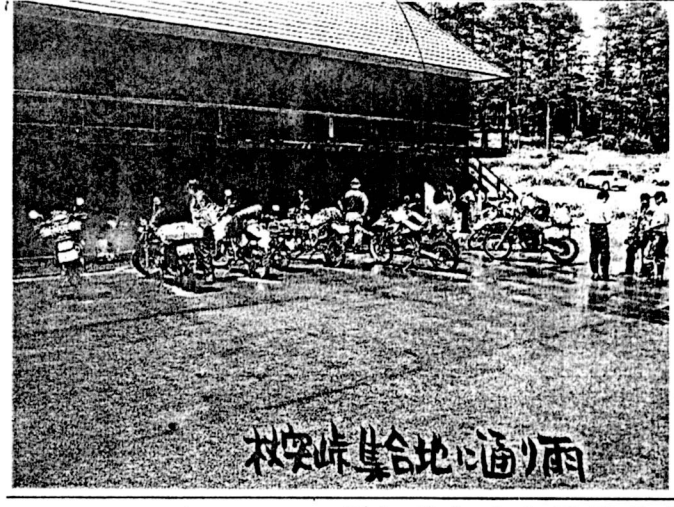
「君はなにをいーま、みーつーめていーるの?」と、何処からとも無く歌が聞こえて来た。夜11時、宴もとうとう終わりを迎え、小生はムーンライトII号へ。肉体的な疲労と精神的な心地良さを、寝袋に入るとグッスリと眠れた。朝6時半、テントから出ると皆さん既に朝食の支度を始めていた。小生も急いでお茶を温め、パンで朝食を済ませる。一服して荷物をまとめると、林道ツーリング2日目の始まりである。田城原を下り、別の林道に突入する。昨日同様、酔金さんの後をなぞるように走らせてもらう。さすがにベテラン酔金さんのライン取りは的確で、FTRでもガレ場を攻略することが出来た。途中、天然の湧き水に出くわし自然の恩恵を受ける。汗をかき火照った体に、湧き水はとて冷たく優しくかった。

「少し男を上げたな」と翌日勇んで出勤すると、バイクの汚れに気づいた事務の女の子から有難い一言。

「男前になったねー、FTR」どうやら、男を上げたのはFTRだったようです。チャンチャン。パチパチ、中村俊介(フガさん風)。

ツーリング参加の感想文

はじめまして、初参加の三浦2号です。ツーリングに参加したのは昨日ですが、感動が冷めてしまいう前に、今新幹線の中で書いています。



杖突峠集合地(雨)



ツーリングするときには、ピストンとキャブレターは必要よね。

ツーリングするときには、ショコライバーと高級工具は必要よね。

ツーリングするときには、アラスカハンマーと鉄ハンマーは必要よね。

暑い出だしには、板氷と氷は必要よね。

わで、寺崎組の技術&精神レベルの高さを感じました。一番ビックリ(感動ではありません)が、あの土砂崩れ越えです。

事件は一般道帰還組と別れ、ガソリンを補給して諏訪南ICから高速に乗った直後に起こった。

を開始する。すると、何とスロットバルブに付いているはずのニードルが落ちていた。

酔っぱらい金子の 厳冬北海道旅行日記 第一二回 第五章 (1991.12.29-1992.1.5)

「ビデオと同じだー」と一人でひそかに感動していました。

「次に何が来るのか」という、ドキドキと期待と不安までも味わえる素晴らしいシステムです。

やはり無理。組長、一服しながら考えること3分半。細いステンレスの番線をニードルに巻き、スロットバルブのサイドから上部に廻して縛り固定する。

「冬道のオートバイはとても危険だから、十分気をつけて」

編集後記 近く最近また参加したい編者たち

今日の新入紹介 三浦2号 吉原雅朗

「あれ...」 ポトルの口からジョロジョロと泡が溢れ出し、同時に信じられない速度で中身が上から凍って行く。